

校区活動事例

筑紫丘校区：筑紫丘っ子夏祭りinサマースクール

期 日	平成30年8月19日（日）		
場 所	筑紫丘公民館 次源田池		
参加者数	子ども437名、大人491名		
主 催	筑紫丘校区子ども育成会		
協力団体	筑紫丘校区自治協議会、青少年育成会、体育振興会、男女共同参画部、健康推進部、リサイクル推進部、防災防犯部、交通安全部、文化部、社会福祉協議会、若久2丁目自治会、筑紫丘2丁目自治会、筑紫丘公民館、小学校PTA		
準 備	広 報	周 知	公民館だよりに掲載、ポスターの掲示、小学校配布
		募集方法	小学校へ申込み、子ども育成会集約
	事前打ち合わせ	回 数	6回
		時 期	5/20、6/9、7/7、7/14、8/4、8/18
		内 容	開催日、プログラムの決定、広報準備、参加児童抽選、ランタン試作、備品準備、当日のスケジュール確認、運営担当確認

■事業概要・目的

「子どもの子どもによる子どものためのサマースクール」「私たちの一番大きい資源は子どもの心である（Walt Disney）」の2つを目的にした事業です。

今年度は校区誕生50周年にあたり『繋がる想い、地域の思い出を子どもたちへ』というテーマのもと地域の大人と子どもとの交流や親睦を図り、ふるさと筑紫丘という思い出を作ることを目指して、サマースクールに加えて夏祭りも開催しました。

■事業実施にあたって工夫した点、苦労した点

6年生を中心に実行委員を募り「どんな授業があったらいいか」の調査を行い、その結果をもとに実行委員の子どもたちと育成会とでカリキュラムを作成しました。中・高・大学生に積極的に声をかけ、授業の指導者や夏祭りの出演の協力をお願いしました。青年たちと会話ができ楽しかったという声が多数あり、子ども会を通して縦の良い関係を築くことができました。

自治協議会の各部会や各町子ども会、小学校PTAに夏祭りへの出店を呼びかけました。売上金の一部は、九州北部豪雨復興支援として被災地へ寄付しました。子どもたちは募金活動を行い、被災地に何ができるか、自主防災のために知っておくべきことは何かを考えることができました。

■事業の成果、課題

今年度は、1部サマースクール、2部夏祭りという2部構成で実施したため、内容が決定するまでは試行錯誤し大変でしたが、例年以上に達成感を味わえました。多くの参加希望があり全員を受け入れることができませんでした。希望者全員を受け入れられるような工夫が必要だと感じています。



走り方教室
最初と最後にタイムを計ると
全員速くなっていました

ランタン作り
夏祭りで使うランタンを作成中



筑紫丘っ子夏祭り オープニング
司会は大学生
シャボン玉でにぎやかに

